

群馬大学教育学部

教育に関する現況調査アンケート

平成19～21年度卒業生調査結果報告書

平成24年12月

目次

はじめに

結果

1. 回答者内訳
2. 学習機会の評価について
3. 達成度の自己評価について
4. これからの教員に求められる資質について
5. 教育学部の総合評価
6. 平成16～18年度と平成19～21年度の比較

資料 1. アンケート用紙「教育に関する現況調査アンケート」

2. 自由記述

群馬大学の優れている点や入学して良かったことなど

群馬大学の教育に対する意見, 改善すべき点など

はじめに

教育学部の教育目標は「豊かな教養と優れた人格，幅広い実践的な能力」を備えた教員の養成にある。教育学部では，平成18年度入学生から，新しいカリキュラムによる教員養成がスタートした。新カリキュラムの特徴は1年次の「教育現場体験学習」から始まる教育実習システムの充実にある。そこで，教育学部が十分に教員養成の機能を果たしているかどうか，現在教職にある卒業生の視点から評価を求めるために郵送調査を実施した。

調査対象者は，現在，教職に就いており，指導教員等より現在の勤務先または住所の情報提供があった平成19年度から21年度までの卒業生である。卒業生165名について，平成24年10月初めにアンケート用紙を郵送し，平成24年11月中旬までに返送された85名のデータを分析の対象とした。質問項目については，資料のアンケート用紙「教育に関する現況調査アンケート」を参照されたい。

結果

1. 回答者内訳

表1 卒業年度別回答者数

	回答者
1 平成19年度卒	17
2 平成20年度卒	27
3 平成21年度卒	40
4 無回答	1
計	85

表2 専攻別回答者数

	回答者
1 国語専攻	0
2 社会専攻	9
3 英語専攻	20
4 数学専攻	8
5 理科専攻	4
6 技術専攻	2
7 音楽専攻	4
8 美術専攻	6
9 家政専攻	4
10 保健体育専攻	14
11 教育専攻	3
12 教育心理専攻	3
13 障害児教育専攻	8
計	85

表3 現在の勤務状況

	人数	%
1 公立小学校	35	41.2%
2 公立中学校	22	25.9%
3 公立高等学校	8	9.4%
4 私立小学校	0	0.0%
5 私立中学校	1	1.2%
6 私立高等学校	2	2.4%
7 特別支援学校	13	15.3%
8 幼稚園	1	1.2%
9 その他・無回答	3	3.5%
計	85	100.0%

表4 採用の形態

	人数	%
1 正規採用	72	84.7%
2 非常勤採用	7	8.2%
3 さくら・わかばプラン等	0	0.0%
4 その他・無回答	6	7.1%
計	85	100.0%

表5 教職を志望するようになった時期

	人数	%
1 大学入学前から	61	71.8%
2 大学1年の頃	1	1.2%
3 大学2年の頃	4	4.7%
4 大学3年の頃	10	11.8%
5 大学4年の頃	7	8.2%
6 卒業してから	1	1.2%
7 無回答	1	1.2%
計	85	100.0%

2. 学習機会の評価について

大学で身につけるべき教員の基本的資質と考えられる15項目について、大学で学習機会があったかどうかを0～3点で評定を求めた(表6参照)。

表6 学習機会の評価

項目		評定						平均
		0	1	2	3	NA	2以上	
1 教育の意義や歴史, 教員の社会的役割や使命	人数	0	13	51	21	0	72	2.09
	%	0.0	15.3	60.0	24.7	0.0	84.7	
2 教育の制度, 学校の仕組み, 教師の服務規程等	人数	4	24	39	18	0	57	1.84
	%	4.7	28.2	45.9	21.2	0.0	67.1	
3 学校の校務分掌や教員の具体的な職務内容等	人数	17	50	16	2	0	18	1.04
	%	20.0	58.8	18.8	2.4	0.0	21.2	
4 小学校教科の学習指導に関する基本的事項	人数	0	25	31	29	0	60	2.05
	%	0.0	20.2	25.0	23.4	0.0	48.4	
5 中学校の教科に関する専門的な知識	人数	1	12	22	49	1	71	2.42
	%	1.2	14.1	25.9	57.6	1.2	83.5	
6 授業のすすめ方(説明・発問・板書・机間指導の仕方等)に関する基本的事項	人数	0	27	35	23	0	58	1.95
	%	0.0	31.8	41.2	27.1	0.0	68.2	
7 教科の実践的指導に関する知識・技能(学習指導案の作成・教材研究・授業構成等)	人数	1	21	32	31	0	63	2.09
	%	1.2	24.7	37.6	36.5	0.0	74.1	
8 教科以外(道徳、特別活動、総合的な学習の時間等)の指導のあり方	人数	4	46	32	3	0	2	1.40
	%	4.7	54.1	37.6	3.5	0.0	41.2	
9 子どもの成長・発達についての知識	人数	0	11	52	22	0	74	2.13
	%	0.0	12.9	61.2	25.9	0.0	87.1	
10 カウンセリングや教育相談に関する基礎知識	人数	0	16	48	21	0	69	2.06
	%	0.0	18.8	56.5	24.7	0.0	81.2	
11 児童・生徒との良好な人間関係の築き方	人数	6	26	45	8	0	53	1.65
	%	7.1	30.6	52.9	9.4	0.0	62.4	
12 一人一人の子どもの個性を理解しようとする態度	人数	2	27	44	12	0	56	1.78
	%	2.4	31.8	51.8	14.1	0.0	65.9	
13 児童・生徒の立場に立った生徒指導のあり方	人数	1	31	43	10	0	53	1.73
	%	1.2	36.5	50.6	11.8	0.0	62.4	
14 学習指導要領と各学年の教育課程(年間計画等)の編成に関する基本的事項	人数	9	26	39	11	0	50	1.61
	%	10.6	30.6	45.9	12.9	0.0	58.8	
15 学級づくりや集団指導のあり方	人数	3	44	33	4	1	37	1.45
	%	3.5	51.8	38.8	4.7	1.2	43.5	

3. 達成度の自己評価について

達成度の自己評価については、大学で身につけるべき教員の基本的資質と考えられる15項目について、どの程度まで学習できたと思うかを5段階で評定を求めた(表7参照)。

表7 達成度自己評価

項 目		評定							平均
		1	2	3	4	5	NA	3以上	
1 教育の意義や歴史, 教員の社会的役割や使命	人数	1	21	42	18	3	0	63	3.01
	%	1.2	24.7	49.4	21.2	3.5	0.0	74.1	
2 教育の制度, 学校の仕組み, 教師の服務規程等	人数	5	24	36	19	1	0	56	2.85
	%	5.9	28.2	42.4	22.4	1.2	0.0	65.9	
3 学校の校務分掌や教員の具体的な職務内容等	人数	18	26	37	3	0	1	40	2.30
	%	21.2	30.6	43.5	3.5	0.0	1.2	47.1	
4 小学校教科の学習指導に関する基本的事項	人数	4	21	32	24	4	0	60	3.04
	%	4.7	24.7	37.6	28.2	4.7	0.0	70.6	
5 中学校の教科に関する専門的な知識	人数	2	13	28	32	8	2	68	3.37
	%	2.4	15.3	32.9	37.6	9.4	2.4	80.0	
6 授業のすすめ方(説明・発問・板書・机間指導の仕方等)に関する基本的事項	人数	4	16	39	21	5	0	65	3.08
	%	4.7	18.8	45.9	24.7	5.9	0.0	76.5	
7 教科の実践的指導に関する知識・技能(学習指導案の作成・教材研究・授業構成等)	人数	3	18	37	19	8	0	64	3.13
	%	3.5	21.2	43.5	22.4	9.4	0.0	75.3	
8 教科以外(道徳、特別活動、総合的な学習の時間等)の指導のあり方	人数	6	38	32	8	1	0	41	2.53
	%	7.1	44.7	37.6	9.4	1.2	0.0	48.2	
9 子どもの成長・発達についての知識	人数	1	12	49	20	3	0	72	3.14
	%	1.2	14.1	57.6	23.5	3.5	0.0	84.7	
10 カウンセリングや教育相談に関する基礎知識	人数	0	25	42	15	3	0	60	2.95
	%	0.0	29.4	49.4	17.6	3.5	0.0	70.6	
11 児童・生徒との良好な人間関係の築き方	人数	5	19	45	15	0	1	60	2.83
	%	5.9	22.4	52.9	17.6	0.0	1.2	70.6	
12 一人一人の子どもの個性を理解しようとする態度	人数	2	15	47	16	4	1	67	3.06
	%	2.4	17.6	55.3	18.8	4.7	1.2	78.8	
13 児童・生徒の立場に立った生徒指導のあり方	人数	2	21	46	14	2	0	62	2.92
	%	2.4	24.7	54.1	16.5	2.4	0.0	72.9	
14 学習指導要領と各学年の教育課程(年間計画等)の編成に関する基本的事項	人数	8	26	37	13	0	1	50	2.65
	%	9.4	30.6	43.5	15.3	0.0	1.2	58.8	
15 学級づくりや集団指導のあり方	人数	4	35	32	12	0	2	44	2.63
	%	4.7	41.2	37.6	14.1	0.0	2.4	51.8	

4. これからの教員に求められる資質について

これからの教員に特に求められる16の資質について、大学に入ってから身に付いた、あるいは向上したと思うものを選択するよう求めた(表8参照)。

表8 これからの教員に求められる資質評価

項 目	選 択	
1 社会人としての常識	人数	41
	%	48.2
2 広く豊かな教養	人数	49
	%	57.6
3 対人関係の持ち方やコミュニケーション能力	人数	44
	%	51.8
4 情報処理の技能(パソコン操作等)	人数	49
	%	57.6
5 課題発見・課題解決の技能	人数	16
	%	18.8
6 発表やプレゼンテーションの技能	人数	59
	%	69.4
7 組織の中で行動する協調性や指導性	人数	42
	%	49.4
8 教師としての規範意識や責任感	人数	35
	%	41.2
9 子どもたちへの教育的愛情	人数	46
	%	54.1
10 人間尊重・人権尊重の精神	人数	18
	%	21.2
11 男女平等の精神	人数	19
	%	22.4
12 ボランティア精神	人数	23
	%	27.1
13 多文化共生・異文化への理解	人数	33
	%	38.8
14 日本や郷土の歴史・文化の理解	人数	28
	%	32.9
15 自然保護・地球環境問題の理解	人数	6
	%	7.1
16 障害のある子どもの理解	人数	55
	%	64.7

5. 教育学部の総合評価

大学の授業や教育実習から総合的に判断して、教育学部での教育の現況について5段階で評定を求めた(表9参照)。

表9 教育学部の総合評価

項目		評 定							平均
		1	2	3	4	5	NA	3以上	
1 教員・スタッフ	人数	4	6	31	31	13	1	75	3.55
	%	4.7	7.1	36.5	36.5	15.3	1.2	88.2	
2 教育のための施設・設備	人数	8	20	27	23	7	0	57	3.01
	%	9.4	23.5	31.8	27.1	8.2	0.0	67.1	
3 授業編成や教育課程	人数	1	12	38	27	7	0	72	3.32
	%	1.2	14.1	44.7	31.8	8.2	0.0	84.7	
4 教育実習等の現場実習	人数	0	5	17	28	35	0	80	4.09
	%	0.0	5.9	20.0	32.9	41.2	0.0	94.1	
総合評価	人数	0	11	24	42	8	2	74	3.64
	%	0.0	12.9	28.2	49.4	9.4	2.4	87.1	

6. 平成16～18年度と平成19～21年度の比較

以下では、平成18年度入学生から導入された新カリキュラムの効果を検証するため、今回対象とした平成19～21年度と前回対象とした平成16～18年度の卒業生の調査結果を比較して、その成果を明らかにする。なお、前回調査時における有効回答者数は68名であった。

表10 教育学部の総合評価(比較)

項目	平均			3以上評価率		
	前回	今回	差	前回	今回	差
1 教員・スタッフ	3.24	3.55	0.31	人数	51	75
				%	75.0	88.2
2 教育のための施設・設備	2.56	3.01	0.45	人数	31	57
				%	45.6	67.1
3 授業編成や教育課程	2.75	3.32	0.57	人数	43	72
				%	63.2	84.7
4 教育実習等の現場実習	3.47	4.09	0.62	人数	54	80
				%	79.4	94.1
総合評価	3.15	3.64	0.49	人数	54	74
				%	79.4	87.1

表11 学習機会の評価(比較)

項 目	平均			2以上評価率			
	前回	今回	差		前回	今回	差
1 教育の意義や歴史, 教員の社会的役割や使命	1.93	2.09	0.17	人数	50	72	
				%	73.5	84.7	11.2
2 教育の制度, 学校の仕組み, 教師の服務規程等	1.73	1.84	0.10	人数	42	57	
				%	61.8	67.1	5.3
3 学校の校務分掌や教員の具体的な職務内容等	0.90	1.04	0.14	人数	12	18	
				%	17.6	21.2	3.5
4 小学校教科の学習指導に関する基本的事項	1.67	2.05	0.38	人数	37	60	
				%	54.4	48.4	-6.0
5 中学校の教科に関する専門的な知識	2.08	2.42	0.34	人数	48	71	
				%	70.6	83.5	12.9
6 授業のすすめ方(説明・発問・板書・机間指導の仕方等)に関する基本的事項	1.52	1.95	0.43	人数	33	58	
				%	48.5	68.2	19.7
7 教科の実践的指導に関する知識・技能(学習指導案の作成・教材研究・授業構成等)	1.76	2.09	0.33	人数	41	63	
				%	60.3	74.1	13.8
8 教科以外(道徳、特別活動、総合的な学習の時間等)の指導のあり方	1.30	1.40	0.10	人数	2	2	
				%	32.4	41.2	8.8
9 子どもの成長・発達についての知識	2.13	2.13	0.00	人数	60	74	
				%	88.2	87.1	-1.2
10 カウンセリングや教育相談に関する基礎知識	2.01	2.06	0.04	人数	51	69	
				%	75.0	81.2	6.2
11 児童・生徒との良好な人間関係の築き方	1.51	1.65	0.14	人数	34	53	
				%	50.0	62.4	12.4
12 一人一人の子どもの個性を理解しようとする態度	1.66	1.78	0.12	人数	39	56	
				%	57.4	65.9	8.5
13 児童・生徒の立場に立った生徒指導のあり方	1.58	1.73	0.15	人数	35	53	
				%	51.5	62.4	10.9
14 学習指導要領と各学年の教育課程(年間計画等)の編成に関する基本的事項	1.36	1.61	0.25	人数	29	50	
				%	42.6	58.8	16.2
15 学級づくりや集団指導のあり方	1.18	1.45	0.27	人数	16	37	
				%	23.5	43.5	20.0

表12 達成度自己評価(比較)

項 目	平均			3以上評価率		
	前回	今回	差	前回	今回	差
1 教育の意義や歴史, 教員の社会的役割や使命	2.91	3.01	0.10	人数	48	63
				%	70.6	74.1
2 教育の制度, 学校の仕組み, 教師の服務規程等	2.79	2.85	0.06	人数	43	56
				%	63.2	65.9
3 学校の校務分掌や教員の具体的な職務内容等	2.30	2.30	-0.01	人数	27	40
				%	39.7	47.1
4 小学校教科の学習指導に関する基本的事項	2.90	3.04	0.14	人数	46	60
				%	67.6	70.6
5 中学校の教科に関する専門的な知識	3.17	3.37	0.21	人数	51	68
				%	75.0	80.0
6 授業のすすめ方(説明・発問・板書・机間指導の仕方等)に関する基本的事項	2.82	3.08	0.26	人数	45	65
				%	66.2	76.5
7 教科の実践的指導に関する知識・技能(学習指導案の作成・教材研究・授業構成等)	2.97	3.13	0.16	人数	49	64
				%	72.1	75.3
8 教科以外(道徳、特別活動、総合的な学習の時間等)の指導のあり方	2.46	2.53	0.07	人数	32	41
				%	47.1	48.2
9 子どもの成長・発達についての知識	3.07	3.14	0.07	人数	52	72
				%	76.5	84.7
10 カウンセリングや教育相談に関する基礎知識	2.93	2.95	0.03	人数	45	60
				%	66.2	70.6
11 児童・生徒との良好な人間関係の築き方	2.73	2.83	0.10	人数	38	60
				%	55.9	70.6
12 一人一人の子どもの個性を理解しようとする態度	3.00	3.06	0.06	人数	49	67
				%	72.1	78.8
13 児童・生徒の立場に立った生徒指導のあり方	2.75	2.92	0.17	人数	42	62
				%	61.8	72.9
14 学習指導要領と各学年の教育課程(年間計画等)の編成に関する基本的事項	2.61	2.65	0.04	人数	36	50
				%	52.9	58.8
15 学級づくりや集団指導のあり方	2.37	2.63	0.25	人数	28	44
				%	41.2	51.8

教育に関する現況調査アンケート

アンケートのお願い

このアンケートは、教育学部で行われている教育(特に教員養成教育)に関してその現況を明らかにすることを目的に、学部専任教員から推薦を頂いた教育学部の卒業生を対象に実施するものです。

回答は任意ですが、現在の教育の現況を評価し、今後の教育の在り方を考えるための貴重な基礎資料となりますので、是非ご協力下さい。

群馬大学教育学部

A. あなたの卒業年度を選んで【 】に○をつけて下さい。

1. 【 】 平成19年度 2. 【 】 平成20年度 3. 【 】 平成21年度

B. あなたが卒業した専攻を選んで【 】に○をつけて下さい。

- | | | |
|---|--|---|
| <p>人文・社会系</p> <p>1. 【 】 国語専攻</p> <p>2. 【 】 社会専攻</p> <p>3. 【 】 英語専攻</p> | <p>芸術・表現系</p> <p>7. 【 】 音楽専攻</p> <p>8. 【 】 美術専攻</p> | <p>教育人間科学系</p> <p>11. 【 】 教育専攻</p> <p>12. 【 】 教育心理専攻</p> <p>13. 【 】 障害児教育専攻</p> |
| <p>情報・自然系</p> <p>4. 【 】 数学専攻</p> <p>5. 【 】 理科専攻</p> <p>6. 【 】 技術専攻</p> | <p>生活・健康系</p> <p>9. 【 】 家政専攻</p> <p>10. 【 】 保健体育専攻</p> | <p>★教育人間科学系で
中学校免許を取得した方</p> <p style="text-align: right;">教科名 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/></p> |

C. 現在の勤務状況についてあてはまるものを選んで【 】に○をつけて下さい。

C1 勤務地について

1. 【 】 群馬県内
2. 【 】 群馬県以外 -

具体的にお書き下さい

都 府
県 道

C2 勤務している学校種別について

- | | | |
|------------------|------------------|------------------|
| 1. 【 】 公立小学校 | 4. 【 】 私立小学校 | 7. 【 】 特別支援学校 |
| 2. 【 】 公立中学校 | 5. 【 】 私立中学校 | 8. 【 】 幼稚園 |
| 3. 【 】 公立高等学校 | 6. 【 】 私立高等学校 | 9. 【 】 その他 |

C3 採用の形態について

1. 【 】 正規採用 3. 【 】 さくらプラン・わかばプラン等での採用
2. 【 】 非常勤採用 4. 【 】 その他

D. いつ頃から教職を志望するようになりましたか。次の中から選んで【 】に○をつけて下さい。

1. 【 】 大学に入学する前から
2. 【 】 大学1年の頃
3. 【 】 大学2年の頃
4. 【 】 大学3年の頃
5. 【 】 大学4年の頃
6. 【 】 卒業してから

志望のきっかけは何ですか。具体的にお書き下さい

E. 次に、大学で身につけるべき教員の基本的資質(知識・技能・態度)と考えられる項目を上げました。

各項目について、以下の質問にお答え下さい。

質問Ⅰ	質問Ⅱ
<p>あなたが受けた大学での授業や教育実習の中で、これらの項目について学ぶ機会がどのくらいありましたか。 次の【0】から【3】までの数字の中からひとつ選んでください。</p> <p>学習機会の評価</p> <p>【0】 まったく学ぶ機会がなかった (学習の機会をつくるべき)</p> <p>【1】 学ぶ機会はあったが不足している (もっと学習の機会を増やすべき)</p> <p>【2】 必要な事項を学ぶ機会があった</p> <p>【3】 十分に学ぶ機会があった</p>	<p>あなたが受けた大学の授業や教育実習の中で、あなた自身はこれらの項目についてどの程度まで学習できたと思いますか。 次の要領で5段階で自己評価し、数字を記入して下さい。</p> <p>自己評価</p> <p>【1】 努力を要する (大学の成績評価のDに相当)</p> <p>【2】 「1」と「3」の間 (大学の成績評価のCに相当)</p> <p>【3】 おおむね満足できる水準にある (大学の成績評価のBに相当)</p> <p>【4】 「3」と「5」の間 (大学の成績評価のAに相当)</p> <p>【5】 十分に満足できる水準にある (大学の成績評価のSに相当)</p>

学校教育と教員の在り方に関して

		I. 学習機会(ひとつに○)	II. 自己評価 (5段階評定)
1	教育の意義や歴史, 教員の社会的役割や使命	0 1 2 3	
2	教育の制度, 学校の仕組み, 教師の服務規程等	0 1 2 3	
3	学校の校務分掌や教員の具体的な職務内容等	0 1 2 3	

教科等の指導に関して

		I. 学習機会(ひとつに○)	II. 自己評価 (5段階評定)
4	小学校教科の学習指導に関する基本的事項	0 1 2 3	
5	中学校の教科に関する専門的な知識	0 1 2 3	
6	授業のすすめ方(説明・発問・板書・机間指導の仕方等)に関する基本的事項	0 1 2 3	
7	教科の実践的指導に関する知識・技能(学習指導案の作成・教材研究・授業構成等)	0 1 2 3	
8	教科以外(道徳、特別活動、総合的な学習の時間等)の指導のあり方	0 1 2 3	

生徒指導・教育相談に関して

		I. 学習機会(ひとつに○)	II. 自己評価 (5段階評定)
9	子どもの成長・発達についての知識	0 1 2 3	
10	カウンセリングや教育相談に関する基礎知識	0 1 2 3	
11	児童・生徒との良好な人間関係の築き方	0 1 2 3	

生徒指導・教育相談に関して(続き)		I. 学習機会(ひとつに○)	II. 自己評価 (5段階評価)
12	一人一人の子どもの個性を理解しようとする態度	0 1 2 3	
13	児童・生徒の立場に立った生徒指導のあり方	0 1 2 3	

教育課程と学級経営に関して		I. 学習機会(ひとつに○)	II. 自己評価 (5段階評価)
14	学習指導要領と各学年の教育課程(年間計画等)の編成に関する基本的事項	0 1 2 3	
15	学級づくりや集団指導のあり方	0 1 2 3	

F. 次に、これからの教員に特に求められる資質(知識・技能・態度)を上げました。
 この中で、あなたが大学での学習や経験で身に付いた、あるいは向上したと思うものがあれば【 】に○をつけてください。いくつ選んでもけっこうです。

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| ①【 】社会人としての常識 | ⑧【 】子どもたちへの教育的愛情 |
| ②【 】広く豊かな教養 | ⑩【 】人間尊重・人権尊重の精神 |
| ③【 】対人関係の持ち方やコミュニケーション能力 | ⑪【 】男女平等の精神 |
| ④【 】情報処理の技能(パソコン操作等) | ⑫【 】ボランティア精神 |
| ⑤【 】課題発見・課題解決の技能 | ⑬【 】多文化共生・異文化への理解 |
| ⑥【 】発表やプレゼンテーションの技能 | ⑭【 】日本や郷土の歴史・文化の理解 |
| ⑦【 】組織の中で行動する協調性や指導性 | ⑮【 】自然保護・地球環境問題の理解 |
| ⑧【 】教師としての規範意識や責任感 | ⑯【 】障害のある子どもの理解 |

⑰ その他に、あなたが大学在学中に身に付いた、あるいは向上したと思う資質(知識・技能・態度)があれば、下の欄にお書き下さい。

G. あなたが受けてきた大学の授業や教育実習から総合的に判断して、教育学部での教育の現況についてどのように評価できますか。

右の各項目について、下記の要領で5段階で評価して数字を記入して下さい。	評価 (5段階評価)
【1】 改善を要する	① 教員・スタッフ
【2】 「1」と「3」の間	② 教育のための施設・設備
【3】 おおむね満足できる水準にある	③ 授業編成や教育課程
【4】 「3」と「5」の間	④ 教育実習等の現場実習
【5】 十分に満足できる水準にある	⑤ 総合評価

H. 群馬大学の優れている点や入学して良かったことなどがありましたらお書き下さい。

I. 群馬大学の教育に対してご意見やご希望、改善すべき点などがありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました。

このアンケートについての
お問い合わせ先

〒371-8510 前橋市荒牧町4-2
群馬大学教育学部 総務係
電話 027-220-7204

自由記述

群馬大学の優れている点や入学して良かったことなど

- 同じ目標(教員)をもつものが多いので、採用試験で有利。(悩み相談ができる。面接練習ができる。先輩からの情報など)。先生方が優しく親身になってくれる。県内出身者が多く、卒業後も良好な関係を継続できる。職場に群大出身の先生が多く、仕事がしやすい。
- 基本的に教員を目指している友だちが多いので、卒業後も悩みを分かち合ったり、相談できる仲間ができた。研究室の先生方が様々なことを親身になって話しを聞いて下さりました。
- 教職に就きたいという同じ志を持った同級生や先輩、後輩、そして後ろから支えてくれる先生方に囲まれて、とても居心地の良い4年間を過ごすことができました。夜10時や11時になっても学部棟に入り、講義の試験に関することや、実習でのこと、教採に向けてのことなど、たくさんのお話を話すことができたのも、良かったのかなと思います。互いの考えや思いを素直に出し合う場として、活用させていただきました。
- 研究室での実践的な勉強が今につながっていると思います。勤務校での授業研究、課題研究等での討論などでしっかりと発言できるのは、ゼミのおかげです。また、群馬県内では、群大生ということで、ボランティア等の活動がしやすく、多く子供と触れ合うことができました。仲間も同じ職業で、今でも話し合えるというのが、魅力だと思います。
- 採用試験対策が充実している点
- 自然豊かで落ち着いた環境の中、同じ目標をもつ仲間と共に学べた、教採への意欲も高まり、友人と励まし合いながら勉強できた。
- 地元のことを深く学習できて良かったです
- 全体としては分かりませんが、私が所属したゼミの先生は、授業や卒論以外でも、話を聞いてくれ今でも、食事をしたりできる、信頼できる方でした。教育実習のシステムがしっかりしていて、安心してのぞむことができました。
- 多種多様な教員免許等の資格が取得できること。教育実習が3年のうちに経験できること。(4年にあると教員採用試験に影響するため。)教員志望の人がかなり多いので、採用試験に向けての勉強がしやすい。(雰囲気が良い)
- 各学科の人数が少ないので、横のつながり縦のつながりが作りやすい。人脈は現場に出てからもとても重要だと思う。今年の4月に初めての移動になり、不安を抱えていたが、いざ赴任してみると、同級生がたくさんいて、わからないことをたくさん聞けた。教採対策がしっかりしていて助かった。専攻の2年生が受ける「教材研究」の授業が大変なためになった。あの授業がなければ、教育実習や現場に出てからの過酷さに耐えられていないと思う。
- 学生がまじめ。教育実習が充実している。学食が充実。
- 学費が安い。また奨学金もあって大変助かりました。実家から通えたのが良かったこと。生涯の親友ができたこと。いろいろ悩んだこともありましたが、そのおかげで人間的に大きく成長できたと思います。(今はちがうかもしれませんが)何時まででも自由に空き教室使えたのが助かった、特に実習中。
- カリキュラムがしっかり組まれていること。学びやすい環境づくりが年々行われていたこと。熱心な先生方が多いこと。
- 教育実習が必修なので、学生時代は「行きたくない」と思っていたけれど、やり遂げてみて「やって良かった」と思えたし、今現場へ出て、あの一ヶ月がとてもためになっている。もし、必修でなければ、自分は、実習に行かなかっただろう。行ったことで、人間的にも、一回り成長できたと思う。それが良かった。
- 教育実習でとても貴重な経験ができたこと。すばらしい教授に出会えたこと。
- 教育に関して、実践的な指導をたくさんしてもらえました。教員になって役立つことも多いです。また、教員仲間がたくさんできたことも心強いです。
- 教員採用試験に対する支援が手厚い。事務の方々が親切。教授が熱心に指導する。
- 教員免許を必ず取得できるように、プログラムが組んであること。各学科の人数が適当だと思います。教育学部は、文化祭だけでなく、体育祭があること。
- 教科に関する専門知識(指導案作成等)を身に付ける事ができた。(良かった所。)教員採用試験対策をしてもらったのは良かった。対策がとても役に立ちました。
- 教採対策がとても充実していた点。特に2次試験対策は、ていねいで実践的でよかったです。
- 群大の優れている点は、以下の3点だと思います。1、現場の実情を踏まえて授業が構成されている。→現場に即戦力として入ることができる。2、教員採用試験対策講座が手厚い。→自信を持って試験を受けられる。3、教育実習とそれに付随するものは充実している。→教員の仕事を十分に把握できる。また、教員になるかどうかについて真剣に考えることができる。
- 群馬の教員になる際、必要な情報がすぐに手に入りやすい。専門をじっくり学習できる機会に恵まれ、教授にも恵まれた。交換留学もあり、とても良い思い出もつくらせていただいた。
- 群馬の郷土文化等を詳しく学べた。大泉町などの「多文化共生」について学べた。聴覚障害学生のための情報保障について知り、取り組むことができた。サンディエゴ州立大学(SDSU)に留学できた。
- 少人数体制で講義等を受けられたので、きめ細かにご指導いただけたところがよかったです。先輩後輩のたてのつながりがあるので、相談したり、ご指導をいただいたりできたのが、とても心強かったです。教員採用試験の対策をして頂いたのがとてもよかったです。ありがとうございました。
- 専門的な知識をお持ちの素晴らしい教授がたくさんいたこと。学生が共に向上していこうとする姿。
- 他大学の実情を理解していないため、優れている点をお話することはできません。しかし、群馬大学で4年間過ごせた事は、非常に良かったと感じております。授業面での専門性の高さや講義の種類もそうですが、その他のサポートが大変ありがたかったです。介護実習では「子供に親戚があるもの」とわがままな希望を言った際にも児童施設へ行かせて頂いたこと。また、教採のための対策講義や自己PR書の添削などは、非常に助かりました。その他、長期休業中の学食の営業なども一人暮らしをしていた私にとっては、ありがたかったです。今の自分は、群馬大学での経験やご助言のおかげです。良い経験をさせて頂き、ありがとうございました。

- ・一つの学科ごとの人数が少ないので勉強を集中してしやすい環境である。また、教授によっては、よく面倒を見て下さる先生もおり、大変勉強になった。
- ・群馬の教員になるために、みんなで2次試験対策をするなどできたこと。現場に出てからも知り合いがたくさんいること。
- ・専門教科の指導法の授業がとても役にたっています。教育実習で、教員の仕事や大変さを実感できました。教育実習の質は、かなり高いと思います。
- ・尊敬する先生や友人、先輩後輩がたくさんいたこと。先生が小論文の指導を個人的にしてくださるなど、学生が勉強しやすい。地元の教育学部出身なので、就職したあとに、色々な場面で、コミュニケーションがとりやすい。(出張先や部活動で知っている先生、先輩が多い。)教育学部で、義務教育について多くを学んだので、高校の教員になってから、視野を広く持つことができる。(高校教員で教育学部出身は少ない。)1年次に医、工、社会情報学部の学生と交流することができるため、多種多様な考えに触れることができた。
- ・附属小中での教育実習を経験することができるので、指導案の書き方、授業の展開の仕方など、他の公立学校だけでは学べないようなことも一から丁寧に指導してくださるので、学ぶことができる点。素晴らしく、熱心な教授がたくさんいらっしゃる点。
- ・やはり群馬県で教員になりたいのなら群馬大学で学ぶことが一番いいと思います。それが、いいことか悪いことかは分かりませんが。教育実習の充実、採用試験対策の授業等、本当に役立ちました。特に「教員採用試験にしっかりと向き合う」ということは、その場合の合否だけでなく、実際に教員になってから役立つのだと改めて感じました。朝6時～夜中12時までこもって勉強できる環境と仲間があったことに感謝しています。
- ・学生の意見を取り入れて、改善してくれる点。駐車場が広く、車での通学がしやすい点
- ・目標に向かって努力できた。仲間通し、交流し合う機会がたびたびあったので、学習の幅が広がった。
- ・実習の期間や機会が増えたのはとても良いことだと思いました。
- ・教育学部の体育大会でつくった人間関係が、教員になった今まで続いて役立ってます。教育実習の制度(4週間と3週間)がとても良いと思います。設備や雰囲気。小学校と中学校、両方の免許を取って卒業できること。
- ・総合大学の利点である様々な学部があることから、幅広い教養を得ることができる。自分の努力によって、他教科の免教が習得できる。優れた教授、教員が多くいる。
- ・教育実習期間が長い、充実していたと思う(小中)。高校の実習をやる際、サポートが少なく1度断られたことがあり、説明したら受け入れてもらえた。高校実習に行きやすくしてほしい。
- ・群馬大学出身の教員仲間が多く、現場に出てからのネットワークがあり、群馬で教員をするなら群馬大学が良いと感じています。
- ・自分が望んで授業を計画的に受ければ、様々な免許の取得が可能であることです。教員として勤めていると、他大学の卒業生で働きながら教学校の免許を取得している人にたくさん出会います。(皆さんお金をかけて、時間もかけて、試験も受けて、苦労しています)
- ・専門教科の技能を高められる環境だったこと。教育学部では、同じ目標を持つ仲間とまなぶことができた。
- ・1年次から教育現場体験が行えた事が良かった。免許が小中両方とも一種がとれたことが良かった。実習がA→1ヶ月 B→3週間あったこと。特に、Aが1ヶ月あったのおかげで、3週間目まで関わられただけでなく、最後の2週間で子どもとより関わられたのが良かった。
- ・学科の人数がすくなく、みんなが仲が良いので楽しい、体育祭があつて楽しい。教育実習の期間が長く、充実している。
- ・教育実習で大学がまとめて実習先と連絡をとり、実習を受けさせてもらえる点が良いと思った。附属の小中特支があるので、比較的たくさん現場に足を運べるところ。群馬県の教員採用試験に沿って対策をしてくれるところ。また、同じ県内の試験を受ける人が多いことも良い刺激となった。初めは、面倒見が悪い大学だと感じたが、今思えば、学生を信頼し、自由を与え「責任」ということを教えてもらったと思う。
- ・群馬の教育現場が身近である。教育実習が5週間+3週間あり、たくさん経験できた。希望し、幼小中高の教員免許をとることができた。職場でも「群大卒」という先輩方や同期がいて心強い。
- ・小、中両方の教育実習を必修で受けられること。
- ・教授が素晴らしい方々多く、レベルの高い講義を受講できたこと。設備環境が充実しており、構内も広く学生生活を豊かに過ごすことができた。(グラウンド、学食、駐車場など)
- ・自然が感じられ、新しい校舎があることなど、学習する環境がとても整っていることが感じられる面もありました。また、生徒と先生方の距離もちかく、4年次の卒業研究では、つきつめて調査していきたいことは、先生には、とことん付き合っただけ、助言をいただくことができました。頼れる先生、支え、見守ってくださる先生方に会えたことが、群馬大学に入学して得られた財産だと思います。
- ・専門的な知識が身に付いたこと。人間関係が広がったこと(他専攻や他学部と触れ合うことが多かった)。教採の対策をしてくれたこと。環境が良いこと。
- ・入学して良かったこと。現在の教職につくきっかけとなる出会いがあったこと。サークル活動、教育実習・授業など、どんなことが自分の将来につながるのか未知数である。
- ・多くの人が群馬で教員になるので、情報交換がしやすい。
- ・同じ目標を持つ仲間に出会えたこと。小学校について全教科の授業を受講できた。附属という厳しいながら、とても学びの多い場で実習を行えた。(今では附属を経験しない学生もいるようですが)。採用試験の対策を卒業後も受けさせてもらえる。教員になった後、群大出身の先輩や後輩がたくさんいるため、話をしやすい。卒業後、試験に合格するまで2年間の仕事を紹介してもらい、そこで多くの経験ができ、今の教員としての仕事に生かすことができている。
- ・学科が少人数で編成されており、教職員との距離が近かった点。支えて頂く事が多くありました。
- ・教育現場の見学や、小学校、中学校、二つの教育実習など現場を知り、体験する機会が多くあり、充実した学習ができた。また、専任教員との関わりが強く、充実した指導を受けることができた。

- ・ 教育現場を体験する要項、条件、設備がそろっていた。
- ・ 教育実習を小・中両方経験できてよかった。
- ・ 在学中だけでなく、卒業後も採用試験の二次対策でお世話をさせていただいて、すごく助かりました。群大で様々なことを学ぶことができたので、二次試験には自身を持って取り組むことができました。大変感謝しています。
- ・ 実習はやっている時は、辛さもありましたが、今思えば、現場を（特に公立小中の実際）を知る事ができ、より具体的な教師としての在り方を意識できました。同じ志や、同じ専攻の仲間との家族のような過ごす時間がとても楽しく、人として大きく成長できたと思います。
- ・ 地元としての教採へのメリット
- ・ 地元の採用試験対策が充実している。授業力育成に力を入れてくれている。
- ・ 地域に根付いているところ（卒業後の先輩・後輩などと良好な関係をもてる）。附属学校による質の高い教育実習。授業における興味・関心の引きつけ方や、単元における有効的な教授方法を学べた。
- ・ 比較的自由な時間が多く、色々な事を体験し多くの人々と出会えた。地元の人々と近い関係にあるので社会とふれあえる。
- ・ 附属の学校を中心とした教育実習は、真に子どもに対して教育する大変貴重な機会であり、十分期間もあり、良いと思います。副専攻をとることができて有難かった。教採対策講義が準備されていて助かった
- ・ 教育実習の期間が増えたこと。より現場を知ることができる環境にあること。同じ職を目指す仲間がたくさんいるので、悩みを分かち会えたり同じ目標に向かって努力できる環境にあること。
- ・ 群馬で教員になるにあたり、郷土の事や群馬での教員の現状を知れたのは、群大の良さだと思います。
- ・ 附小での実習（先生方が熱心）。卒業後附小で非常勤としてお世話になれたこと。
- ・ 群馬で教員を目指すかけがえのない仲間と出会えたことが一番の宝です。初任研後も群大のつながりというのは大きく情報交換がしやすいです。附属で優れた教育実習を行えたことは、3年目になってもまだまだ財産だと感じています。現場では、授業法や指導案についても深く勉強できないと感じます。サークル活動、課外での時間に教室や研究室を開放して下さったことが仲間とのつながりを深めてくれました。
- ・ 地域に根ざした大学なので、県内の先生方とのつながりが持てたり、授業で大学院に来ている先生方と関わったりなどで、群馬の教員になるには、メリットがたくさんあると思います。（教員になってからも生かせるので）
- ・ 教育学部内で他の専攻の人とも交流できること。教授に質問しやすい雰囲気があること。
- ・ 教員、スタッフが学生にとって身近であり、自由に意見を言ったり、聞いたりしてもらえたことは今考えるととても恵まれていたと思います。
- ・ 人脈が広がり、群馬県に採用された後もスムーズに社会生活を送ることができている。
- ・ 専攻内のチームワークが養われる行事など。
- ・ 専攻の教授の方々が優しく指導して下さい、大変勉強になりました。県内で教員をする上で、人脈がつくれる。
- ・ 専門的な知識等を身に付けられてよかった。専門的な先生の方で学べてよかった。
- ・ のどかな自然の中でのびのびと過ごすことができる。他学部との交流があり、狭い価値観にとらわれない。

自由記述

群馬大学の教育に対する意見、改善すべき点など

- ・ 教育理論の講義だけではなく、体育や図工では、実技演習をしながら取り組める授業があると現場に出ても、それを思い返しながら、教材研究や指導にあたるかなと思います。
- ・ 現職ですぐに必要で活かせることももっと学ぶ機会が欲しかった。例：保護者対応、学級づくり、問題のある子どもへの対応法など。
- ・ 初任者が続々と辞めていっています。原因は様々とは思いますが、保護者対応の仕方等も知識をして持っておかないと将来大変です。ぜひ講義で入れてください。
- ・ 大学での勉強内容と、現場で必要とされる力がかけはなれている。もう少し現場のことがわかる授業内容が必要。（指導主事を招くなど。）教職教養についての指導が不足。
- ・ 日々の授業実践に関しては現場に出るとても苦労しました。実際の授業の作り方、学校行事、仕事内容について知っておくことが必要かと思います。小学校教員は、全教科行うため、専攻のわくをこえて、多くの指導法の授業を行えたらよかったですと思います。
- ・ 予定を組むことは、難しいと思いますが、例えば、毎回色々な校種のゲストティーチャーが参加するタイプの講義などがあつたら、在学中にはぜひ受けたいと思っていました。教員として学校での一日をどう過ごしているのかが理解できれば、さらに見通しをもって教員の道を歩めると思います。
- ・ 学校現場にありそうな教具を揃えていただくと実習や教材研究などで役に立つと思います。（拡大コピー機、書画カメラなど）
- ・ 関東大会や、全国大会に出場する部活への支援や遠征費等の充実。筋力トレーニングルーム、プールの改修。
- ・ 小学校の指導法をもっと詳しく学んでおけば良かったと思う。夜間にもっと自由に教室を使えるとよい。
- ・ クラス経営、集団の動かし方、問題のある生徒に対しての接し方について、もっと実践的な授業があってほしいです。
- ・ 群大の先生方、事務の方々、その他大勢のスタッフの方々には、4年間支えていただき、とても感謝しています。勉強が大変すぎて辞めようかと思ったこともありましたが、友人や家族の励ましもあって、無事卒業できました。群大に入学して卒業したことは、私の誇りです。今は、県内でも教員免許を取れる大学はたくさんありますが、群大は伝統のある唯一の教職専門学部として学生にはプライドを持って学んでほしいです。
- ・ 現場で対応する力（実情問題に対して考える）は大切だと思うが、それ以前に各教科教育の専門性をもっと高めるべきだと思う。理論と実践とあるが、理論が手薄になりすぎている。もっと基礎理論を大量につめこむことも大切だと思う。空っぽで実践をしても現場にとっては、迷惑になると思う。教科教育がしっかりできてこそその教員だと思うので、実践に傾きすぎている。少し理論に傾けてほしい。
- ・ 現場のことを知る教員をふやして、即戦力になれるような学生の育成を。公務分掌のことがさっぱりで、正直この3年いっぱいいっぱいでした。
- ・ 小学校の教材研究等をもっと学べると良い。
- ・ 非常に高い専門性と熱心なご指導を頂けてありがたかったです。特に、教授の方々や、研究室の先生には、大変お世話になりました。非常に熱心でわかりやすく学生の身になり考えてくださったので、良かったです。私自身、群馬大学様には大変お世話になりました。このようなアンケートを含め、できることがありましたらお手伝いをさせて頂きたいと思います。微力ですが、今後ともよろしくお願いたします。
- ・ 他学科と合同でやる時にうるさいときが何度かあった。難しいと思うが、道徳や授業の作り方などの授業では、少人数が好ましいと思う。教える講師、教授によって熱意が違うのは分かるが、教授によって仕事の負担量が違いすぎる場所もあると思った。特に人気のあるゼミは、厳しいと思う。
- ・ ボランティア推奨をもっとすると、学生の視野が広がる。科の研究室が少なかった。（今はどうか知りません）ありがとうございました。
- ・ 本年度、担当するクラスで教育実習生の受入を行いました。とてもよくやってくれたが、指導案や実習録の書き方等、大学や3年生の教育実習で勉強してきたのかと疑問に残る点もあった。現場は、指導案や実習録の指導をする時間は十分に確保できないので、その点をご理解いただくと助かります。
- ・ 論文を書く際に必要な、資料やデータベースなどがもっと豊富にあれば、より良いのではないかと思います。現場に出るすぐ活用できるような指導法・指導内容（特に道徳）を勉強できたらよかったですと思います。初任者研修で、道徳の授業の作り方などを教えて頂き、とても役だったので、大学でも実践的な内容を学ぶことができれば、学生のためになるのではないかと思います。
- ・ 学級通信の書き方、手紙の書き方、電話のマナー等、一般常識を学ぶ時間があると、若い人が教員として最低限の常識を持って働けると思います。
- ・ 教育学部に関しては、単位が得やすいと思う。もう少し、厳しく評価しても良いと思った。
- ・ 高校の教員を養成するのであれば、もっと専門の授業を増やすべきだと思います。
- ・ 実践を増やした方がいい。
- ・ 全学年使える多目的室等があると良い。広い場所で何か作成したい時に使える教室がなかった。（夜、教育棟は閉まってしまったので）
- ・ これからも優秀な教員者を輩出し続けてください。
- ・ 専攻の学生の中には、インターンシップに行きたくても卒業研究の実験が優先になってしまい、行けませんでした（私もそうでした）。新卒で採用されて、いきなり現場に行くというのはとても不安がありました。研究室や教授の先生方の考え方によりけりとは思いますが、日程等うまく調整できれば良かったなど、自分自身の反省点でもあります。

- ・ 学校現場での仕事につながる講義が充実してもいいと思います。たとえば、パソコンの使い方にしても、成績評価のシステムをつくるなど。教科の専門知識をより体系的に授業でまなべるといいと思います。そしてその得た知識が現場で生かせるような授業、演習がもっと幅広く選ばれたらよかったです。
- ・ 授業づくりに関して、大学の講義の中で、理論的な事より具体的な方法論のようなものを多く扱ってくださると、教員になったばかりの頃は、役立つと思います。
- ・ 音楽棟にあるピアノがボロボロで、あれはひどすぎると思います。音も正しい音が出ていませんでした。楽器を揃えてあげてください。音楽を教える人は耳が命だと思います。
- ・ 夏季研修で新築のG B教室に入ったが、クーラーが入って窓があげられないためか、非常に空気が悪く、1日缶詰の講義で気持ち悪くなった。換気に気をつけてほしい。
- ・ 教育学部ではありますが、教育の知識や技術を学ぶのと同じくらい専門実技にも力を入れるべきだと思います、音楽系サークルで自主的にも活動していました。ただ、私が在学していた頃は、自由にサークル活動ができない状況がいくつかありました。（場所の問題、楽器の使用など）。授業だけでは学べないことを、課外活動として、自由に学べる環境がもっと整うといいなと思います。
- ・ 今、社会が教育学部に求めていることのひとつには、より実践的で現場に出てすぐに役立つ人材の育成があると思う。確かにそれも大事なことだが、実際に現場に出て思うのは、「教育とはなんなのか」「教師が果たすべき役割は」といった原理的なことを深く追求することが大切だということ。よい教師の核となる部分を大学時代につくっておくことの重要さに気づいた。「実践力」と「教師としての核の形成」の両方をこれからも大事にしていきたい。
- ・ 実習が3年後期に集中したため、後期の授業がなかったこと。私たちの時は、はじめての年だったので、集中講もあまり組まれていなかったことが残念でした。
- ・ 教育系の国立大学にありがちなことだと思いますが、他県の採用試験を受けることへのサポートが少なく残念でした。また、理論面では多くのことを学ぶことができましたが、実際の学校現場でもとめられていること（学習指導、校務分掌など）が、在学中は見えてこなかったです。現場に出て、他大学とはちがいが教育のスペシャリストにちかくなるような、現場を知ることができる機会がもっとあれば良かったと感じています。
- ・ 模擬授業や朝の会、帰りの会、学活などの模擬的な実践的な講義の授業があったらよりスムーズに現場に出られるかなと思いました。
- ・ 学生がどうやる気を起こすのか、気持ち次第であると思うので、教育に深く関心が向けられるようなカリキュラムは継続し、改善すべきところはしていったほうが良いと思う。大学の教授方は、全体的に御指導が熱心なので、卒業後もとても助けていただいている。感謝の気持ちでいっぱいです。教員採用試験対策を卒業生にも公開していただきたいです。何卒よろしくお願いたします。
- ・ 学内での飲酒など、もう少し大目に見ても良いと思います。集まることの少ない学生にとって、無料で話せるC棟などの夜の開放は、実習生などにじはありがたいです。
- ・ 教科の内容を学ぶこともとても大事だけれど実践で役立つ指導法などをもっとたくさんやった方が良いと思う。（授業をつくって、実践してみるなど）
- ・ 現場のことをもう少し学ぶ機会があると良い、授業、学校経営、生徒指導など、様々な仕事があり、はじめは戸惑うことが多かった。それらを、なくせるように、細かい仕事内容や身に付けておくべきスキルを教えてもらえるとこれからの学生は社会に出て役立つと思う。
- ・ 体育館の設備が不足している。
- ・ 体育館をはじめとする運動施設の不備。現職教師による出前講義など、現場での仕事内容が詳細にわかるような機会を増やすべき。大学での講義と実際の現場とのギャップに驚いている人が多いです。
- ・ 体育的施設に充実を強くお願いしたい。近くに県S Cがあるが、それと同じくらいの施設があると使用者側からすると、授業の間に使おうかと思ったり、丁寧に使おうかと思ったりする。また、それが自慢や誇りになる。体育実技では、教え方ではなく、その種目の専門知識や技能など深いところまで学べると嬉しい。体育の先生はやはり、どんなスポーツも、最低、中学レベルくらいの知識や技能があった方がいいと、実際に働いていると思います。
- ・ 部活動に活気がない。現場で役に立つ資質と能力を培う上で大変重要な活動だと思うので支援して頂きたいです。体育設備も不足、老朽化が目立ちます。まずは、グラウンドの人工芝化を。
- ・ 附属での実習は、全員が経験した方が良くと思う。教育の厳しさを本当に学べた気がする（公立学校とは少し違う気がする）、そういった世界で教科教育というものを深く考えられる）
- ・ もっともっと現場に出てみるべきだと思う。現職を知って、苦労なところや自分の足りないところを実感した上で、大学で学べるような、同時進行の形式がとれたらよいと思う。
- ・ 1年の観察実習は、受け手側とすると、意識が低い学生さんがいるなど難しいなあと思いました。まだ実習まで2年以上あるので、課題をもって取り組むのは難しいのだと思います。
- ・ 小学校や中学校の教科指導法の授業に質の差がありすぎたような気がします。指導法は40代くらいの教員あがりの教授の方々のものが一番身につきました。知識を学ばせるものと指導法をもう少ししっかり区切った方がよいと思います。入学システムがおかしいと思いました。教員になるときに持っている免許によって人生を大きく左右されます。それなら、大学に入学後に免許によるコース分けを行う方がよいのでは？
- ・ 4年間お世話になりました。いい後輩たちを育ててください。
- ・ 学校教育の現場の様子をもっと知りたい。どのように仕事をしているのか、実際の指導の方法とか。教授と現場の先生が連絡して、情報交換し、その情報を学生に教えて欲しい。
- ・ 教育実習を附属小、中で実施する際に、1クラス4~5人の実習生が配置されることは、担任、指導教官となる先生の負担が大きいのでは。
- ・ 現場実習の他に、教育現場について体験・学習できるといい。
- ・ 現場との連絡。大学の授業からは現場の実際がわからず、就職後、一から教えていただいた。現場の教員が、大学の授業で教えるということがあっていいのでは。その方が、大学の教授が考えられている「現場で改善すべき点」も伝わりやすくなるのでは。大学で教えられていたことと、実際のとの差が少しでも縮まればと思います。互いに補いたいですね。